

【な】

- 生材 …………… 立木あるいは伐採直後の乾燥していない木材のことです。立ち枯れの木や葉枯らし材は生材ではありません。
流通の現場では、伐採から日数が経った木材も生材と呼ぶことがありますが、伐倒直後より含水率が下がっていると考えられ、厳密には生材ではありません。乾燥する前であれば、未乾燥材と呼ぶ方がより正確です。
- 生蒸気 …………… ボイラで水を加熱して作られた蒸気のことです。木材乾燥では、湿球温度を上昇させるため、蒸気投入弁を開いて乾燥機内へ投入する蒸気を生蒸気と呼びます。
- 二次乾燥 …………… 乾燥工程や乾燥手法を二つに分ける場合、その2番目の工程をこう呼ぶ場合があります。たとえば、6ページの写真のように、高温セット処理後に、高周波加熱減圧乾燥や天然乾燥など、異なる施設や手法で乾燥する場合を二次乾燥と呼ぶことがあります。
- 熱劣化 …………… 高温で長時間乾燥した木材は通常の乾燥材よりも脆くなるなど、品質の低下が認められます。このような熱による品質の低下を熱劣化と呼びます。原因は明らかではありませんが、化学的な変性が理由の一つではないかと考えられています。

【は】

- 端距離 …………… 接合具の中心から部材の端までの距離のことです。
- 複合式 …………… 一般に、二つ以上のものを組み合わせて一つのものにする方式です。「蒸気高周波複合式乾燥法」という場合には、乾燥の1サイクルの中で高周波による加熱と蒸気による加熱を組み合わせて使うという意味が強調されています。常に同時に動作させているとは限らない、という意味も含まれます。
- 平衡含水率 …………… ある温度・湿度の環境に木材を置くと、いずれ木材内の湿度と周囲の湿度とが釣り合い、木材の重さが変化しなくなる時が来ます。そのときの含水率を平衡含水率と呼びます。湿度が高いと平衡含水率は高くなり、温度が高いと平衡含水率は低くなる性質があります。樹種によってあまり大きな違いはありません。
- 併用式 …………… 一般に、二つ以上のものを同時に用いる方式のことです。たとえば、木材乾燥において、「熱風減圧併用式乾燥法」と言う場合には、熱風による加熱と減圧操作を同時に行うことを強調する意味があります。